

特集 がんに対するチーム医療最前線

【巻頭言】

田中克哉 (徳島大学大学院医歯薬学研究部麻酔・疼痛治療医学分野)

濱田康弘 (徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患治療栄養学分野)

第254回徳島医学会学術集会が、平成29年2月19日(日)に、徳島大学大塚講堂にて開催されました。今回の担当教室は疾患治療栄養学分野と麻酔・疼痛治療医学分野でした。恒例の公開シンポジウムは「がんに対するチーム医療最前線」というテーマで行われました。このテーマは、事前に2つの担当教室で接点があるものを最優先に考えて選んだものです。

公開シンポジウムでは、4人の演者の方々にご登壇いただき講演をしていただきました。まず、がん疼痛管理の立場から、獨協医科大学医学部麻酔学講座主任教授の山口重樹先生による「痛みに負けない、がんを負けないために知っておくべきこと～痛みの訴え方から最新の痛み治療について～」のご講演をしていただきました。山口先生は全国の麻酔科医の中でも、緩和医療の分野で大変精力的にご活躍されている先生で、がんの疼痛について一般市民の皆様にもわかりやすく教えていただきました。次に、ホスピス緩和ケアの立場から、近藤内科医院看護師の住友美智子先生、看護師長の谷田典子先生から「ケアをとおして癒し癒されるホスピス緩和ケア」という演題でご講演いただきました。一般の市民の方々は、徳島で最先端のホスピスを展開している近藤内科病院の現場で一番患者さんに接している看護師さんから、現状についてお話していただくと、いろいろイメージしやすいだろうな、ということで、無理にお願いして来ていただきました。近藤内科病院での現状とスタッフの方々も癒すことで癒されて、それが次へのモチベーションになっていることを知ることができ、勉強になりました。3番目に外科医の立場から、徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科講師の吉田卓弘先生による「食道癌に対する手術治療について」ご講演がありました。最新の食道癌の

治療方法などわかりやすく解説してくれました。一般市民の方々にも理解していただけたと感じています。最後に徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患治療栄養学分野助教の鈴木桂子先生による「がん患者さんの栄養管理を支える栄養サポートチーム (NST)」のご講演がありました。NSTの役割や徳島大学病院でのNSTの活動の様子をわかりやすく解説していただきました。

今回のシンポジウムは一般市民向けのいい企画であったとわれわれ自画自賛しています。会場には、ご高齢の一般市民の方や徳島医学会に出席されたスーツ姿の先生方がいらっしゃいました。私たち医療者ががん患者さんたちにチームになって提供している治療やサポートについて、少しでも一般市民の方々に理解していただければ幸いと考えています。

今回から徳島大学での徳島医学会は会場を長井記念ホールから大塚講堂へ変更して行われることになりました。大塚講堂の収容人数は650人です。今回、いい企画と思っていましたが、残念ながら会場は空席が目立ち若干寂しいものとなりました。今後、歴史ある徳島医学会を盛り上げていくうえで、公開シンポジウムの運営の仕方、事前の広報、宣伝の仕方など多くの一般市民、医療関係者に来場してもらえる工夫が必要であろうと考えさせられました。

最後になりましたが、徳島医学会および公開シンポジウム開催にあたり、いろいろとご尽力いただきました2つの教室の先生方、ご講演していただいた先生方、徳島大学および徳島県医師会の関係の先生方、事務局の方々、演題応募して発表していただいた先生方に厚く御礼申し上げます。